

インペリアルウイング富山迎賓館の大理石

この建物では、床材や壁材として4種類の石材が使われています。壁材としては大理石のトラバチーノロマーノキアーロ（イタリア産）が、床材は茶色のロッソマニアボスキー（イタリア産）と薄いピンク色のベルリーノロザート（イタリア産）、アクセントとして緑色の蛇紋岩の一種が使われています。



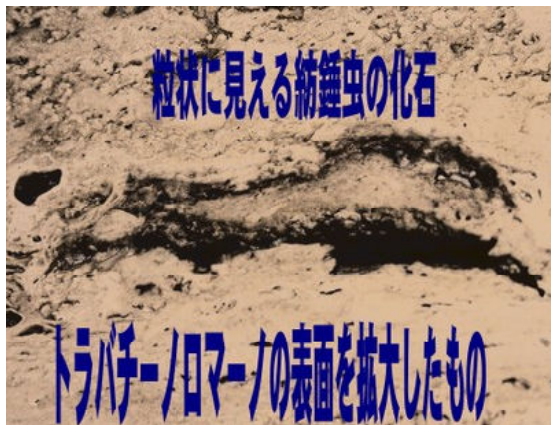
トラバチーノロマーノキアーロの特徴は、ごく薄いピンクの色合いと穴の開いた表面の模様です。腕足類の一部と思われる緩いカーブを描いた殻やサンゴの化石が見られます。

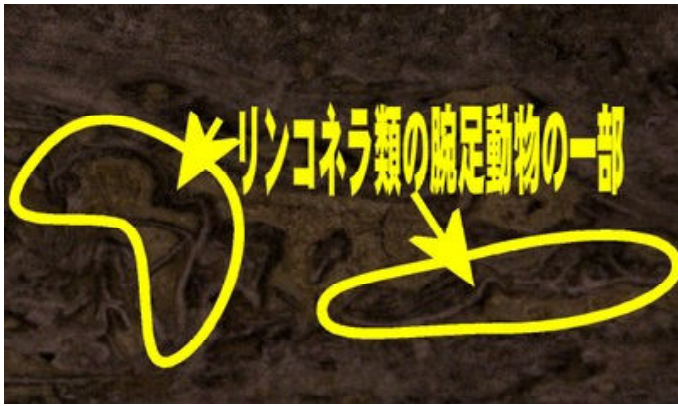


ロッソマニアボスキーには、アンモナイトの化石が非常にたくさん含まれていました。

ベルリーノロザートには腕足類の化石がたくさん含まれていました。

緑色の地に白の模様が入っているのは、蛇紋岩です。蛇紋岩は鉄などを多く含む橄欖岩が変成作用を受けてできたもので、変成岩の一種です。富山県では、境川上流で見ることができます。





※上の画像は、インペリアルウイング富山迎賓館の承諾を得て撮影し掲載したものです。なお、写真によって色合いが異なるのは、画像処理によるものです。